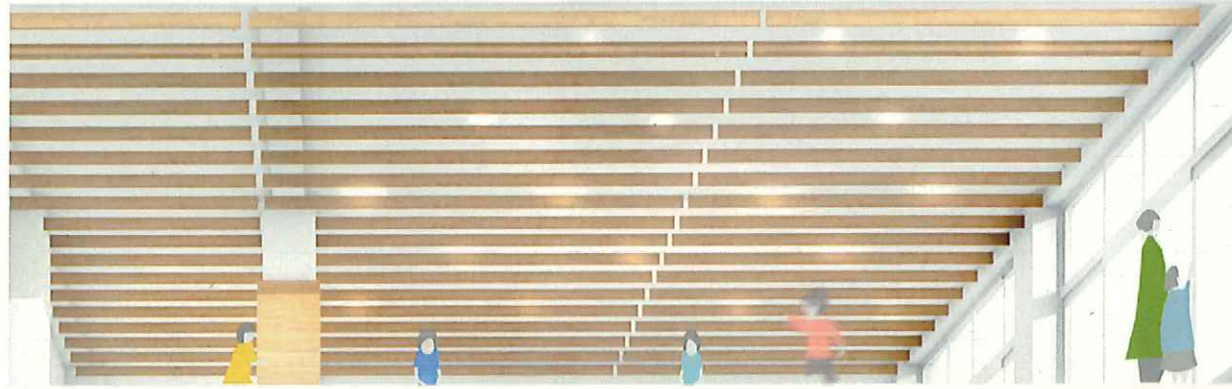


酒 匂 小 学 校 木 質 化 計 画



● 長い廊下に居場所をつくる提案

廊下を拡張するように一部の教室の廊下との間仕切り（建具）を取り外し、展示機能をもった木質の壁、棚を設置し、多目的に使用できるテーブル、椅子ホワイトボードなどを活用、多目的な学年スペース＝溜まりとします。また、長い廊下の要所にはウンター、フック掛けと一体となった窓台、ベンチ等の木質感のある拠り所を加えます。

● 子ども達を迎え、また会うことを約束する昇降口の提案

靴脱ぎをする日本の小学校では昇降口は重要な空間です。児童数が多い時に設計された3つの昇降口では、いまでは空っぽな靴箱が目立っています。そこで、児童の昇降口は中央口と東口に集約して、ゆったりと履き替え、着替えができるスペースとしながら、下校前に待ち合わせしたり、おしゃべりする場所をつくります。

● 閉ざされた部屋を開き、地域とつながるスペースの提案

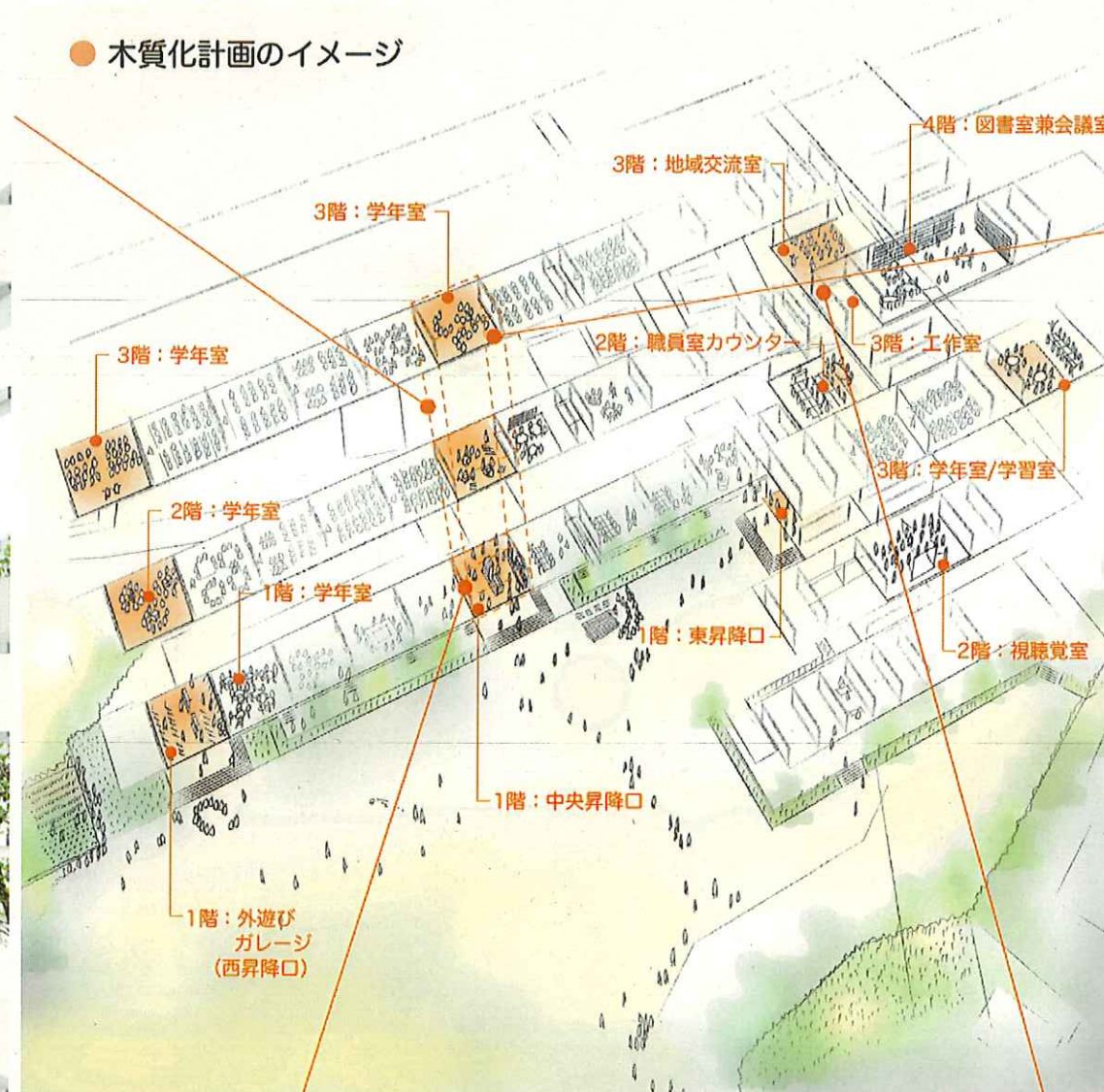
現在は倉庫として使われている3階の社会資料室は、普通教室よりも一回り大きいスペースで、1学年全員があまることも可能な大きさをもっています。また、1階の市民プラザとも連動できる位置にあることから、地域交流としても活用できる多目的なスペースとして活用することを提案します。

テーマ1 地域とつながる小田原産の木材を利用した木質化空間

● 既存校舎のポテンシャルを活かした木質化プロジェクト

築後半世紀近くの年月を経た校舎には時間と記憶がもたらす気があります。しかし、一方で老朽化は避けられず、汚れ廃れも否めません。私たちは、こうした既存校舎のもつメリットやデメリットを注意深く読み取りながら、そこで展開されている教育プログラムと連携し、これからの学校に必要な空間をみんなで考え、みんなでつくる酒匂小学校木質化プロジェクトとして提案したいと考えます。

● 木質化計画のイメージ



● みんなでつくる小田原WoodBoxの提案

棚や椅子になる家具を小田原市の木材を使い、親子ワークショップによる体験DIYでつくる事は、木に対する理解を深める場となり、児童のみならず、地域みんなの思い出として継承され続け、未来の「木のまち」を創出することができます。



● 快適な手洗い場所の提案

各所、廊下に配置されている流し台は、長い間に汚れてしまっており、水道管が露出していてイメージがよくありません。人研ぎ面の補修（塗装）と共に、木質要素もとり入れ、鏡を設えた快適なコーナーを提案します。

テーマ2 地域に開かれた木質化計画による持続可能な教育・地域活動交流の創出

● これからの教育を支える学校

未来へとつながる人を育てる場所であること、子ども達がはじめて社会を学び、様々なコト・モノ、そして人に出会う機会であるということは従来と変わらない学校の役割です。その一方で、SDGsを見据えた教育方針、ICT技術をつかった学習ツールによる新しい教育方法の導入など、社会の変化に伴い、教育にも変化、変換が必要とされます。

- 提案の方針 -

- 学びのスペースが学校敷地全体に広がるように適切な設えをもたせます。
- 学級、学年を越えた活動や地域交流を可能とするスペースを確保します。
- 子ども達が共に学び、教え合うことを可能にし、実験の場、遊びの場、発表の場など、様々な教育プログラムに対応できる学習環境をつくります。
- 明るく、快適で気持ちのいい生活環境を整えます。

● 地域と共生する学校

児童数の減少は学校に空き教室を多くつくる状況をもたらしますが、一方で、校舎の地域利用を可能とし、学校と地域の交流の場をつくります。それは、閉ざされがちな教育環境を開ききっかけになり、コミュニティスクールとしての位置づけを可能とします。

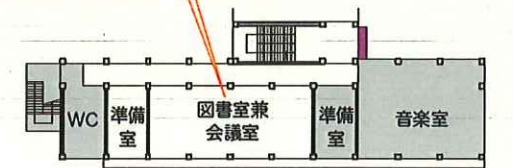
核家族化さらには一人親家庭が増加する傾向の中で、多世代の地域の人たちとのつながりは、子ども達に知識や心の広がりをもたらし、地域で子ども達を育てることは、酒匂町民、小田原市民としての愛着と誇りを養うとともに、学校も地域の共有資産だという意識となり、現代社会では希薄となっている繋がりやをうむ場所として学校を再編することが重要だと考えます。

□ 図書室兼会議室

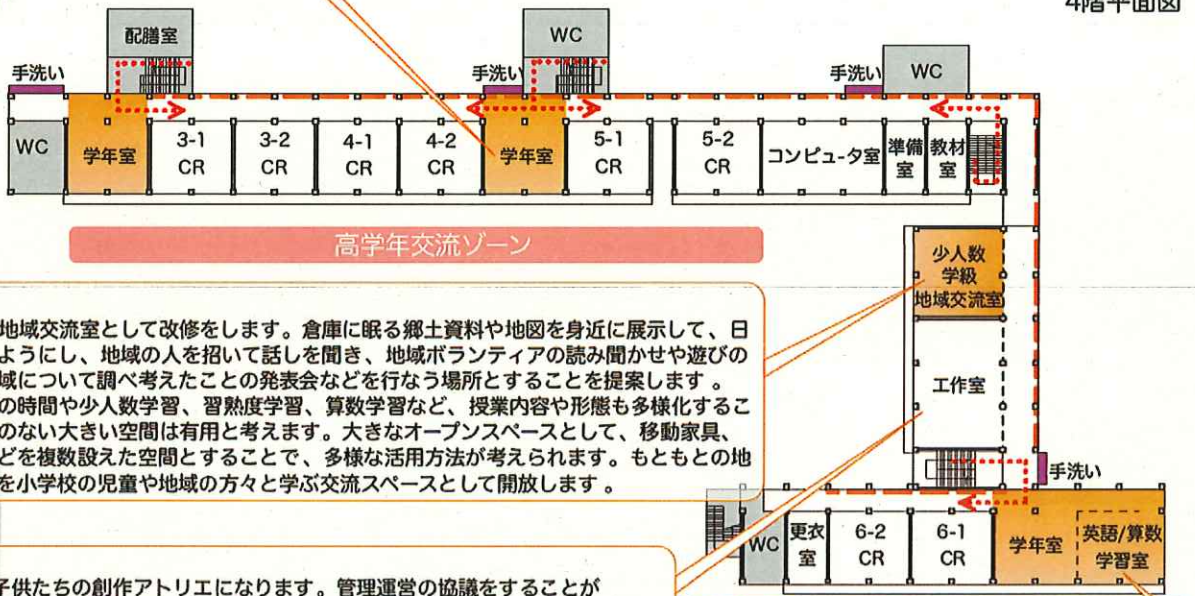
図書室は、予算の余裕があれば、高学年の調べもの学習で活用できるように、自由にレイアウトを変えられる可動式の机とすることが望ましい。また靴を脱いで座って本を読む事ができる小上がりスペースを設けるなど、児童が気軽に行きたくなくなるように設えることは、今後の課題であると考えています。

□ 学年室

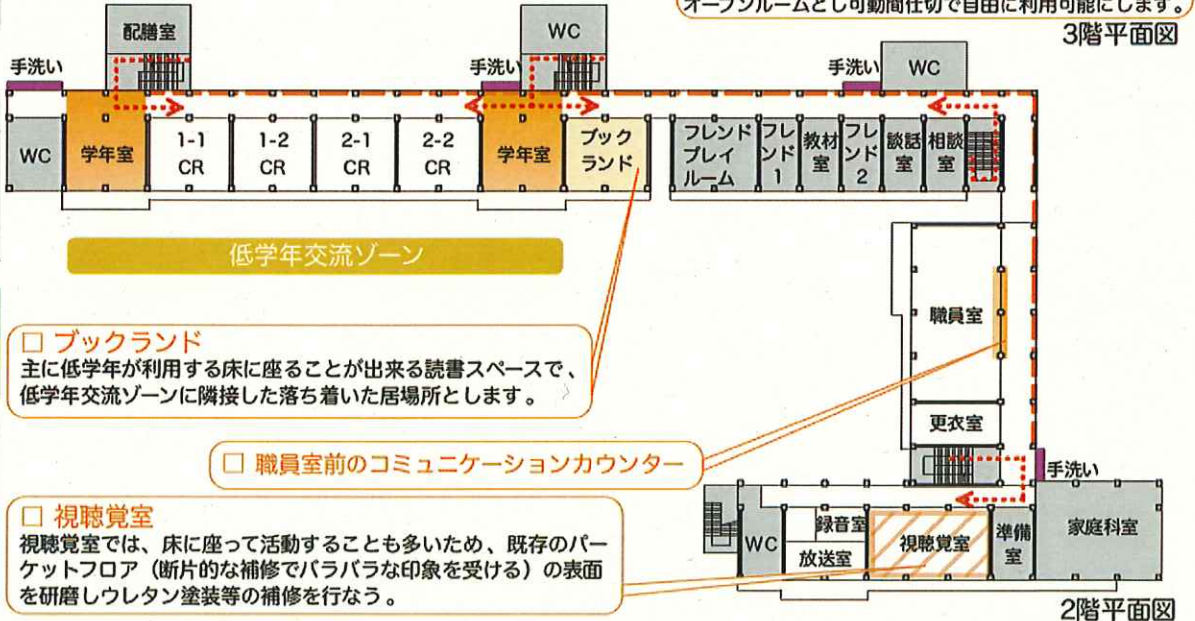
学級学年のまとまりを考え2階を1-2年、3階を3-5年および6年のCRとして想定する。階段室入り口正面や廊下の突き当たりにある教室は、オープンスペースとして、学級の展示や発表等、多目的に使うスペースとして電子黒板の導入も可能なように考える。



4階平面図



3階平面図



2階平面図

□ 学年室

1階の学年室は、隣接する校庭や畑で広域避難所に指定されているため、学校運営時外でもアクセスできるように、市民プラザに直接入れる扉を設定する（番号認証による解錠付き）。災害時の拠点となる市民プラザに隣接する備蓄倉庫、開放WCの設定を決めておく。東昇降口を開放し、体育館を避難所として開放する。学校運営協議会/地域連絡会等で、日常の情報共有が必要である。避難訓練も地域と共同でおこなう。

□ 中央昇降口と東昇降口

- ・ 1~4年生は中央昇降口利用する。
- ・ 5~6年生は東昇降口を利用する。
- ・ PTAや地域の方やフレンドの利用者も東昇降口を利用する。

□ 外遊びガレージ（西昇降口）

西昇降口は、休み時間をサポートする（遊具置き場）外遊びガレージの役割をもたせる。また、菜園（畑）に近いので、収穫した作物を洗って干したり、並べたり、吊るしたりすることもできるように、既存の靴箱を利用した什器やカウンターの整備をおこなう。

□ 工作室

工作室は、授業以外でも使える設えとすることで、子供たちの創作アトリエになります。管理運営の協議をすることができれば、親子ワークショップや地域ワークショップとしても使える地域のファブラボとして有効利用することを提案します。

□ 地域交流室

社会科資料室は、地域交流室として改修をします。倉庫に眠る郷土資料や地図を身近に展示して、日常的に目に触れるようにし、地域の人を招いて話しを聞き、地域ボランティアの読み聞かせや遊びの会、子ども達が地域について調べ考えたことの発表会などを行なう場所とすることを提案します。今後、英語学習の時間や少人数学習、習熟度学習、算数学習など、授業内容や形態も多様化することを考えると、柱のない大きい空間は有効と考えます。大きなオープンスペースとして、移動家具、ホワイトボードなどを複数設えた空間とすることで、多様な活用方法が考えられます。もともとの地域の歴史や暮らしを小学校の児童や地域の方々と学ぶ交流スペースとして開放します。

凡例

- 児童等の日常動線・出入口
- 職員来客の出入口
- 主な改修工事範囲
- 機能配置・家具移設等の変更
- 小田原WOOD COUNTER

セキュリティ門

国道1号線

至小田原駅

配置図兼1階平面図

小田原市酒匂小学校内装木質化改修 基本設計・実施設計業務				業務スケジュール						施工スケジュール					
	検討項目	検討手法	具体的な主要検討内容 / 提出書類内容	2018年 12月	冬休み 1月	通常授業 2月	3月	春休み 4月	通常授業 5月	通常授業 6月	7月	夏休み 8月	通常授業 9月		
一般業務	基本設計	・現地調査	事業関係者との協議	☐ 竣工図書と現状の整合・不整合の確認 ☐ 学校運営と教育プログラムの擦り合わせ（室配置） ☐ 木質化の合理性、効果の検証											
		・方針策定	事業関係者との協議	☐ 関係法令のチェック（関係省庁へのヒアリング） ☐ 関連改修工事整理（空調設備/省エネルギー事業他）											
		・概略設計図書作成	事業関係者との協議 イメージ共有	☐ 計画案策定（木質化メニューおよび学校再編） ☐ 施工スケジュール案/仮設計画案の作成											
		・概算金額算出	事業関係者との協議	☐ 計画案策定（木質化メニューおよび学校再編） ☐ 施工スケジュール案/仮設計画案の作成											
	実施設計	・実施設計図書作成	事業関係者との協議	☐ 計画決定 ☐ 設計図書作成 ☐ 仮設計画作成（安全対策）											
		・積算/設計書作成	事業関係者との協議	☐ 積算調書作成											
		・完成図作成		☐ 積算調書作成											
	・打合せ及び協議記録	事業関係者との協議	☐ 業務着手時 ☐ 現地調査前 ☐ 実施設計図書完成時												
追加業務	・ワークショップ/意見交換	関係者との協議 小田原市/酒匂小/地域	☐ 既存図面確認 ☐ 学校側との意向調査 ☐ 模型の作製												
	施工業者選定準備 施工準備	入札関係図書作成補助 施工者との事前打合せ	☐ 施工者選定業務補助（入札関係） ☐ 施工準備（現場および事前図面チェック）												
				方針策定のための十分なヒアリング 計画提案を重点的に行う期間を確保											
児童・教員の方々をはじめとして、施設利用する方々を中心に、事業関係者のみなさんと共に考えていきたい項目 * 各工程は想定であり、市担当者の方々と協議調整期間を含みます。				業務締結 中間報告 最終報告 成果品提出 新年度 準備工事 工事着手 CR工事完了 全工事完了											